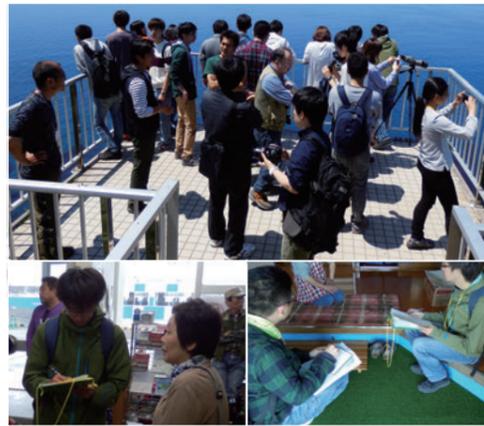




調査へのご協力 ありがとうございました！



天売猫の取り組みに関する皆さんのお考えを伺うため、北海道大学と酪農学園大学の協力で、6月22日～24日に聞き取り調査を実施しました。皆さんのご協力により、約130世帯から回答をいただくことができました。集計結果は今後公表いたします。いただいた意見は今後の取り組みの参考にさせていただきます。



ウニ選別

ウニの選別作業や網外しなど、貴重な体験もさせていただきました。関係者の皆さん、ありがとうございました。



【編集後記】

天売島のノラネコ対策を紹介する「天売猫だより」を作成しました。今年は4号発行の予定です。全号を通してご覧いただくと、取り組みの全体像がわかります。天売島の方々が登場する機会も考えていますので、ぜひお手元に置いておいてください。9月にはドブネズミ対策の説明会も開催します。お楽しみに！
(羽幌町役場 町民課環境衛生係 小笠原悠太)

【インタビュー】

羽幌町観光協会 天売支部長 / 佐賀 大一氏



観光協会の支部長という立場で、天売猫の取り組みに関わっています。メディアでもよく取り上げてもらったこともあり、ここ1～2年は天売猫をきっかけに、今までとは違う層の方々が島を訪れることが多くなったという印象があります。譲渡された猫はみな飼い主さんの元で幸せに暮らしているということを知り、とても嬉しく思っています。天売猫は街の猫と違い、純粋でおだやかで飼いやすいとも聞きました。「人と海鳥と猫が共生する天売島」という素晴らしいテーマに向かって、継続的に取り組むべき活動だと思っています。

天売島のネコ問題 <http://www.teuri-neko.net>
facebook <https://www.facebook.com/teuri.neko>

「人と海鳥と猫が共生する天売島」連絡協議会
構成団体：
羽幌町役場 町民課
北海道 環境生活部環境局生物多様性保全課
環境省 羽幌自然保護官事務所
公益社団法人 北海道獣医師会
北海DOぶつnet
協力 / 環境省北海道環境パートナーシップオフィス

天売猫だより

第1号

発行 / 「人と海鳥と猫が共生する天売島」連絡協議会

発行日 / 平成28年8月25日



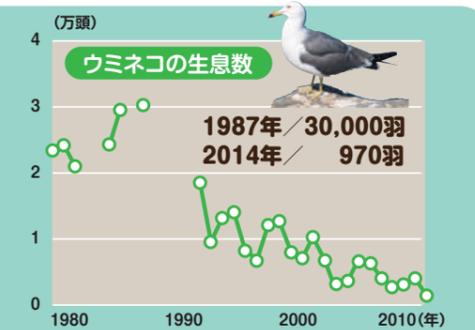
なぜノラネコ対策を はじめたの？

島では近年ノラネコが増加しており、平成26年ごろには200～300匹のノラネコがいたと推定されます。ノラネコが増えたことで、以下のような問題がおこっていました。

海鳥への影響

一部のノラネコが海鳥繁殖地で、海鳥のヒナや卵を捕食しています。また海鳥を驚かせ、繁殖が失敗することもあります。住宅地と海鳥繁殖地を行き来するノラネコもおり、ウトウの帰巣が始まる夕暮れ時に赤岩に向かう道路で見かけることもあります。ノラネコの影響を受けやすいのは、ウトウやウミネコなどで、観音岬のウミネコの繁殖地が消滅した要因の一つは、住宅地から近いため、ノラネコが行き来しやすかったことが考えられます。

※海鳥が減少した原因はノラネコ以外にもハシブトガラスなどの増加、餌資源の減少など様々考えられます。



ウトウを捕食するノラネコ (国立極地研究所 伊藤元裕氏提供)



畑を荒らすノラネコ



道路を横断するノラネコ

住民生活への影響

ノラネコの多くは住宅地に生息しているため、住民生活にも大きな影響があります。家や畑、庭に侵入して荒らしたり、水揚げした魚を横取りしたりするほか、交通事故などをひきおこしています。平成22年に役場が実施したアンケート調査では約65%の住民が、ノラネコにより何らかの被害を受けたと回答しています。



冬のノラネコ



凍傷で耳が欠けているノラネコ

ノラネコ自身への影響

冬の寒さの厳しい天売島は、ノラネコにとって暮らしやすい環境ではありません。通常、家で飼われている猫は10～20年生きますが、野外で暮らすノラネコの寿命は短く、一般的に5年ほどと言われています。厳しい寒さで凍傷になり、耳が欠けたり、けがや病気のノラネコも多く、交通事故で死んでしまうネコもいます。

どんな取り組み？

ノラネコが増えることは、海鳥や人間、そしてネコにとってもよいことではありません。そのため役場、北海道、環境省、北海道獣医師会と猫の保護団体などが協力して「人と海鳥と猫が共生する天売島」連絡協議会を作り、ノラネコ対策を進めています。

① 飼い猫の登録制度の実施

飼い猫の適正飼育をすすめるため、平成24年に「天売島ネコ飼養条例」が作られました。飼い猫の登録や室内飼育の奨励と、ノラネコへのみだりなエサやりの禁止などが定められています。現在この条例の基づき42匹の飼い猫が登録されています。



② 「天売猫方式」によるノラネコの対策

ノラネコを捕獲し、新しい飼い主に譲渡する取り組みを行っています。



捕獲する

島内に箱わなを設置し、ノラネコの捕獲を行います。毎日見回りしてノラネコが入っていないか確認します。



ノラネコの捕獲作業

島外に出す

ノラネコの多くは札幌市内の動物病院に運び込まれ、一度に10匹のノラネコを送り出すこともあります。



捕獲されたノラネコ

手術などを行う

動物病院でマイクロチップの装着、不妊手術、ワクチン接種などを行います。



動物病院での医療行為



預かりボランティアによる馴化作業



人に慣れたノラネコ



海鳥センターでの馴化作業



毎日のふれあいが馴化につながる

人に慣らす

ノラネコは人に慣れていないため、譲渡には人に慣らす馴化(じゅんか)作業が必要です。エサやりなどの通常の世話の他に、積極的に猫とコミュニケーションをとることで徐々に人に慣らしていきます。

馴化は海鳥センターや動物愛護団体、自宅などで天売猫を預かる「預かりボランティア」、酪農学園大学や旭山動物園などの手によって行なわれています。大半の猫は半年程度で人に慣れるようになります。



譲渡会の様子



譲渡する

譲渡会などを通じて、人に慣れた天売猫の飼い主を探します。譲渡会は、札幌のほか、羽幌や留萌でも行われています。

成果は？

ウミネコの増加や交通事故の減少などノラネコによる海鳥や住民生活への影響は減少しています。また、譲渡された天売猫は、飼い主さんの元で幸せに暮らしています。

(平成28年8月現在)
 捕獲した数…………… 134匹
 島から出した数… 106匹
 譲渡した数…………… 82匹

取り組みを始めた翌年の平成27年には、観音岬で再びウミネコの繁殖が確認された他、道路へのノラネコの飛び出しが減るなど、取り組みの成果が少しずつ表れています。



ウミネコの繁殖地



飼い主から届いた天売猫の近況報告

天売猫をきっかけに島の知名度もアップ!

天売島に関心を持つ人も増えています。天売島に行ってみたいと考える飼い主さんも多く、来訪を後押しするため「天売猫ふるさと旅行券」をプレゼントしています。



島の関係団体との意見交換もスタート!

平成27年秋のドブネズミの被害拡大を受けて、ノラネコの対策は一時中断しています。しかし、現状のままでノラネコ問題を放置すると取り組み前の状態に戻ってしまう可能性もあります。そこで、島内の関係団体と「連絡会」をつくり、今後のノラネコ対策の方針や効果的なドブネズミ対策などについて、定期的に話し合いを行っています。今後、島民の皆さんと話し合う機会も設ける予定です。ご協力よろしくお願いいたします。



連絡会の構成団体

- 各町内会長
- 北るもい漁協 天売支所
- 羽幌町観光協会 天売支所
- 天売の自然と親しむ会
- (一社)天売島おらが島活性化会議
- 各学校
- 地域おこし協力隊
- 役場天売支所
- 「人と海鳥と猫が共生する天売島」連絡協議会